

No	委員		意見・要望等	計画への反映箇所
	氏名	分野		
第1回熊本城復旧基本計画検証委員会				
1	坂本委員	経済・観光	財源内訳の基金部分の内訳を詳細に示してほしい。	資料編(3)③熊本城復元整備基金の活用実績(P27) ⇒基金の内訳を記載
2	原委員	文化	現計画で20年の計画期間の中で、今後の事業量が右肩上がりの急カーブになっている。その点について検証を。	第3章4(3)②適正な事業量の再設定(P58) ⇒検証内容を記載
3	北野委員	考古学(石垣)	修復検討委員会と保存活用委員会がそれぞれ独立している現在の体制では、トータルのすり合わせができていない状況。改善の検討をお願いする。	第4章3(1)①文化財的かつの保全と計画的復旧(P97) ⇒【記載】今後も柔軟な組織体制の整備とあわせ、各組織間での情報共有もさらに重要になってきます。
4	山尾副委員長	土木工学(歴史遺産)	当初の計画より早めに着手できた部分について、それが可能となった理由は？	(当日回答)崩落石材の回収等、金額的にも事業者の確保についても比較的融通のききやすい業務が早期に着手できた。
5	山尾副委員長	土木工学(歴史遺産)	今回の検証の結果をふまえて、当初策定した復旧基本計画の内容を変えていくのか。	第3章4復旧手順及び期間(P51~P63) ⇒検証結果をふまえて計画内容を改定
6	坂本委員	経済・観光	標準工期と実績の違いについて、それぞれの工程で説明を。	第3章4(3)①標準工期の再設定(P57~P58) ⇒実績を踏まえ各作業項目の標準工期を再設定
7	北野委員	考古学(石垣)	報告書作成についての労力も考慮に入れて組織と期間を見積もってほしい。	第3章4(3)①標準工期の再設定(P58) ⇒事業報告書作成の標準工期を設定 第4章6(1)熊本城調査研究の更なる推進(P128) ⇒【記載】調査研究と報告書などの執筆・作成に従事する文化財専門職員の育成確保なども含め、熊本城調査研究センターの体制充実を図っていきます。
8	北野委員	考古学(石垣)	石工の育成は継続して現場に参加してもらうことが重要。同じ人が続けて工事に携わっていただけるような仕組みづくりを。	第4章6(2)②令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み(P131~P132) ⇒石垣復旧に必要な人材の育成確保における今後5年間の具体的計画を記載。
9	養茂委員長	造園学	伝統技術・伝統技能はOJTが基本。熊本城が期限付きで仕組みを作るなどの提案を。	第4章6(2)②令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み(P131~P132) ⇒石垣復旧に必要な人材の育成確保における今後5年間の具体的計画を記載。
10	坂本委員	経済・観光	人材確保は大きな問題。高校に石工学科をつくるなど、大きな視点で育成の取り組みを。	第4章6(2)②令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み(P131~P132) ⇒石垣復旧に必要な人材の育成確保における今後5年間の具体的計画を記載。
11	養茂委員長	造園学	人材育成は一つの方式ではなかなか答えが出ない。高校の専門教育での人材養成と、現場での人材育成とを繋げるようなパターンも検討しては。	第4章6(2)②令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み(P131~P132) ⇒石垣復旧に必要な人材の育成確保における今後5年間の具体的計画を記載。
12	原委員	文化	石垣復旧の取り組みは「熊本モデル」として全国の先駆けになる。次世代に繋ぐためにも映像による記録等で残していただきたい。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(復旧情報の発信)(P115) ⇒【記載】YouTubeなどを活用し、復旧状況を動画で分かり易く伝える取り組みも実施していきます。
13	北野委員	考古学(石垣)	文化財の公開・活用は「見て、触れて、やってみて」が大事。石曳きや石割りの体験や石に触れる機会など、「見える化」に留まらない公開を。	第4章6(2)②令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み(P131) ⇒【記載】城内のイベントでの石割、石曳などの体験会の実施

No	委員		意見・要望等	計画への反映箇所
	氏名	分野		
14	北野委員	考古学 (石垣)	情報公開では動画の活用も検討してほしい。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(復旧情報の発信)(P115) ⇒【記載】 YouTubeなどを活用し、復旧状況を動画で分かり易く伝える取り組みも実施していきます。
15	北野委員	考古学 (石垣)	学校・教育等の活用については、白河市小峰城の小学生を対象にした取り組みなども参考に。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(学習・教育等への活用)(P116) ⇒【記載】 将来を担う人材育成の観点からも、学校教育との連携を図っていくことは重要であり、安全の確保に十分留意したうえで、復旧事業との調整・工夫を行い、復旧箇所を学習の場、復旧期間を学習の期間と捉えた教育プログラムなどへの支援に取り組んでいきます。
16	坂本委員	経済・観光	見学通路の活用とあわせて、体験型の観光についてもどこかの場所で考えていただきたい。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(学習・教育等への活用)(P116) ⇒【記載】 城内イベントなどにおける体験型の取り組みの実施についても検討していきます。
17	伊東委員	建築学 (日本建築史)	お城に詳しい人に満足して帰ってもらうことも重要。復旧に伴う調査研究の成果の展示を。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(復旧情報の発信)(P115) ⇒【記載】 復旧工事に伴う調査成果については、天守閣内に企画展示コーナーを設け、随時最新の成果を展示するとともに、熊本博物館やわくわく座と連携して、様々なかたちで情報発信を行います
18	蓑茂委員長	造園学	「見える化」については、視覚だけではなく五感を使って実感してもらうことも重要。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(学習・教育等への活用)(P116) ⇒【記載】 城内イベントなどにおける体験型の取り組みの実施についても検討していきます。
19	蓑茂委員長	造園学	出版物を作って終わるのではなく、利用する人が増えるような検討を。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(学習・教育等への活用)(P116) 【記載】・・・教材などを作成し、小中学校等の教育の現場で活用してもらうことや、出向授業などにより熊本城への関心を高める取り組みの実施なども検討・・・
20	坂本委員	経済・観光	寄附金の使い道について情報発信を。	※3月に予定しているシンポジウムで取り上げるとともに、SNS等において随時情報発信を行う。
第2回熊本城復旧基本計画検証委員会				
21	北野委員	考古学 (石垣)	事業報告書の刊行について、要する時間の検討と体制づくりをしっかりとやってほしい。	第3章4(3)①標準工期の再設定(P58) ⇒事業報告書作成の標準工期を設定 第4章6(1)熊本城調査研究の更なる推進(P138) ⇒【記載】 調査研究と報告書などの執筆・作成に従事する文化財専門職員の育成確保なども含め、熊本城調査研究センターの体制充実を図っていきます。
22	山尾副委員長	土木工学 (歴史遺産)	人材育成については具体的な取組の記載を検討してほしい。	第4章6(2)②令和5年度(2023年度)から5年間の方針と具体的取り組み(P131~P132) ⇒石垣復旧に必要な人材の育成確保における今後5年間の具体的計画を記載。
23	原委員	文化	知識や技術をもつ高齢者の人材活用についても検討してほしい。	第5章1(1)人材育成に係る課題(P138) ⇒【記載】・・・現役世代から若い世代への技術継承や世代交代をいかに進めていけるかが鍵となる・・・
24	原委員	文化	情報発信については若年層向けにマンガ等の活用も検討してほしい。	第4章4(2)①復旧過程を見る、学ぶ、楽しむ(復旧情報の発信)(P115) ⇒【記載】 情報発信にあたっては、情報を受け取る側の興味がわき、分かり易く伝えられるよう、対象者に応じた表現手法を検討します。
25	北野委員	考古学 (石垣)	来城者に対する防災に関する教育や意識向上の取組についても検討してほしい。	第4章5(3)将来の災害に備えた熊本城全体の安全・防災対策等の検討(P127) ⇒【記載】 地域と連携した防災訓練の実施とともに、熊本城における防災対策の取り組みや過去の被災情報等についても周知することで、来城者の防災意識を促すような取り組みの検討も行っていきます。